

シマフクロウの森から共生の大地へ 環境が「農・林・漁」を繋ぐ

早稲田環境塾 塾長 原 剛 （写真&資料の出典:「虹別コロカムイの会」より）



西別川の位置

西別川は摩周湖から源を発し、
オホーツク海に注ぐ77.5kmの
名流



アイヌの神聖なる山、カムイ岳



摩周湖



西別川



養魚場 日本発・最大のサケ孵化場



シマフクロウ

成鳥の体長は約70cm、体重は約4kg、羽を広げると1.8mにもおよび、短く低い声で「ボー・ボー・ボー」と鳴き、大きな音をたてて飛ぶ世界でも最大級のフクロウである。

その容貌から「森の哲学者」と呼ばれ、アイヌ民族からは「コタン コロカムイ」(コタン:村 コロ:守る カムイ:神)としてあがめられていた。主に生きているサケ科の魚やネズミ類の小動物などを餌とし、体長が大きいため、営巣は河畔林にある広葉樹の大木の樹洞などをすみかとしている。かつては、北海道全的に全域にすんでいたシマフクロウは今や北海道の一部にしか生息しておらず、その数も100羽と極めて少なく、絶滅危惧類IA型にも指定され環境省でも保護に努めている。



養魚場 大橋勝彦 事務局長



ドナルドソン系ニジマス



森の大移動

～シマフクロウの森づくり百年事業植樹祭のはじまり～



釧路新聞 平成 6 年 6 月 22 日所載

まず環境づくり ナラの木大移動

虹別コロカムイの会が初年度の事業

シマフクロウを救え



【標茶】シマフクロウの絶滅危機を救おうと、虹別コロカムイの会（大山会長、会員二十人）がこのほど設立されたが、初年度の事業計画でもあるシマフクロウが生きやすい環境づくりを、と植林作業を行い、ナラの木など七本を虹別・観山橋そばの「ミ捨て場」地域環境を守るため平成四年に開始）に植えた。

これは、虹別地区に町が三回にわたりユンボで除雪ステーションと虹別コミュニティセンターを建設するため民有林を伐採したが、シマフクロウに欠かせない広葉樹を守るため同会が植林を計画、これまで

はつてある同所は以前「ミ捨て場」だったのにタイヤやトタン、自転車などユンボで掘りあげたのびに出てきた。シマフクロウは「園またはを待つ神」を意味するた



大山会長

えつける。現在、ゲートがはつてある同所は以前「ミ捨て場」だったのにタイヤやトタン、自転車などユンボで掘りあげたのびに出てきた。シマフクロウは「園またはを待つ神」を意味するた



シマフクロウの森づくり百年事業植樹祭



全国の仲間の支援

第16回シマフクロウの森づくり100年事業植樹祭

-苗木寄付者-(敬称略)

(財)三菱UFJ環境財団

(社)根室管内さけ・ます増殖事業協会

須貝 文昭、近藤(東京)、島影建設

星野 伸一、標茶町緑化推進委員会

虹別コロカムイの会

-苗木樹種-

ミズナラ・ハルニレ・ドロノキ・ヤチダモ・イタヤカエデ

シラカバ・ヤナギ・ケヤマハンノキ

H 21. 5. 17

合計3,000本

主催 虹別コロカムイの会

後援 摩周水系西別川流域連絡協議会・摩周水環境保全実行委員会
弟子屈町・標茶町・別海町・根室南部鮭定置連絡協議会

巣箱

雪の前に巣箱を清掃

高さ7mの木の枝に登る舘会長



虹別コロカムイの会



会長 舘定宣

平成6年(1994年)設立

活動



巣箱の設置・メンテナンス

バンディング



西別川流域の自治体の動き

別海町／標茶町

「川を考える月間」の指定

弟子屈町

摩周湖を世界遺産登録へ



西別川のバイカモ

バイカモ(梅花藻)

湧水源や冷たい清流に群生するキンポウゲ科の常緑の沈水植物で、春から秋にかけて白い花を繰り返し咲かせる。水質汚染などには敏感で群生する川は清流の象徴とされる。



シマフクロウの森づくり百年事業植樹祭

